

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立和庄中学校	校長氏名	上垣内 雄治	生徒指導主事氏名	新谷 企予子
-----	----------	------	--------	----------	--------

取組事例名 『エコキャップモザイクアート』

取組のねらい『キーワード：全校が一つに，地域が元気に』

本校では、3年前から、全校が一つになる場として、体育大会でのマスゲーム（1学期）、文化発表会でのモザイクアート（2学期）、卒業式（3学期）を設定し取り組んでいる。ねらいは次のとおりである。

ア 小さなエコキャップを並べ、全校生徒で一枚の絵を完成させることで、望ましい人間関係を築くとともに、責任感と所属感の向上を図る。

イ 実行委員を組織し運営させることで、実行委員の生徒がリーダー性を高める中で、自主的、実践的な態度を育てる。

ウ 完成したモザイクアートを地域からも鑑賞できるように校舎に掲示することで、学校の取組を発信するとともに、地域に活力を与える。

取組の具体的内容『キーワード：地道な作業，各自の責任』

1 エコキャップの回収

- (1) 1学期の文化委員会で、エコキャップの回収をスタートする。
- (2) 多く回収できたクラスを終業式で表彰する。

2 実行委員の募集（9月初め，部活動を引退した3年生が対象）

- ・生徒会執行部は文化発表会を企画運営するため、執行部が実行委員を募る。

3 実行委員会の準備

(1) デザイン決定

今年話題になった人物の中から、生徒も地域の方も見て元気が湧く人を選び、その人ならではの言葉を考える。

(2) 指示書づくり

フリーソフト「bigart」を用いて決まった写真（デザイン）をモザイク用に変更し、各クラスが担当する指示書を作成する。

(3) パワーポイント作成

全生徒が作業内容を正しく理解するために、作業の手順やコツを説明するためのパワーポイントを作成する。



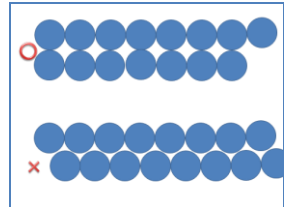
紙を貼り合わせる



色を塗る



指示書完成



パワーポイント例

4 ボランティア活動開始（9月～）

一学期から回収されていたエコキャップを色ごとに分ける。この作業は、完成するまで昼休みを使ってボランティア（2回で1つスタンプが貰える）で行う。



エコキャップの色分けボランティア



5 エコキャップ並べ

各学年1つの空き教室を使って並べる。また、各クラスに1名の実行委員がつき、エコキャップ並べの指導を行い、文化委員と共に進捗管理を行う。



指示書通りにキャップを並べます



段々全体像が見えてきました

6 テープ貼り

7 吊り下げ・完成（記念写真撮影）

8 実行委員による維持・管理

取組の課題・創意工夫『キーワード：リーダーの育成とコミュニケーション能力』

1 リーダーの育成

- ・教師主導ではなく、主体的な活動にするため文化委員や実行委員会を組織した。

2 隙間時間の活用

- ・合唱や学年・部活動発表もあり、多くの時間が必要な時期のため、昼休憩を活用した。

3 作業の徹底

- ・全員が共通理解するための支援として、パワーポイントや教室の板書などを工夫した。

4 コミュニケーション能力の育成

小中一貫教育の一環として、「発達段階に応じたコミュニケーションモデル」を作成するとともに、計画的にコミュニケーションを重視した学習を仕組み、実践の場として活用した。

	前期 (小1～小4)	中期 (小5～中1)	後期 (中2～中3)	到達目標
思いやり	1 はきはきと心をこめた挨拶ができる。	1 時と場をわきまえた挨拶や敬語を使うことができる。	1 時と場に応じて適切な言葉遣いや行動をすることができる。	・自分も相手も大切にしようとする姿。 ・自ら手立てをみようと努力する姿。
かきわり	2 話の声をかけをすることができる。	2 思いやりの声をかけをすることができる。	2 状況に応じて適切な声をかけをすることができる。	
つたえたい	3 構えができる。 ・相手の目を見て話し聞く。 ・主題と話題をはっきりと言う。	3 相手意識をもつことができる。 ・反応しながら聞く。 ・理由を言う。	3 対話ができる。 ・相手の話に進んで質問や感想を言う。	
ことば	4 ことばの数を増やすことができる。 <例> 「うれしい」「すごい」	4 同じ意味の言葉に言い換えることができる。 <例> 「うれしうれし」「OOのような」	4 時と場に応じた言葉を適切に選ぶことができる。 <例> 「OOに感謝する」	
表現	5 自分の気持ちに気づき、出すことができる。 思いや感情 (感情)	5 相手の気持ちに気づき、自分の気持ちを出すことができる。	5 相手の気持ちを受け止めて、自分の気持ちを伝えることができる。	
表現	遠景・遠隔 他者との関わり 遠慮し (目標やめあて)			

コミュニケーションを重視した学習



取組の成果（効果）『キーワード：所属感、達成感』

- ア 所属感や達成感
- イ 先輩へのあこがれ
- ウ 地域への感謝
- エ 自己肯定感の向上



地域新聞の取材を受ける実行委員

－生徒の感想－

- ・並べるのは難しかったが、先輩がやさしく教えてくださってうれしかった。
- ・来年は実行委員がしたい。先輩や卒業した人たちにも受け継いでいることを知ってもらいたい。
- ・地域の人が声をかけてくれた。

－実行委員の感想－

- ・全員が参加しないと意味がないので、皆に声をかけやってもらうのが大変だった。
- ・地域の方や全生徒が協力して完成したこと、そして3年前からの伝統を受け継ぐことができうれしかった。
- ・今後は、さらに発展させてほしい。

今後の展開『キーワード：より主体的に』

- ア 教員が写真を撮ったり聞き取ったりした取組の様子を校内掲示し、活動の後押しをしている。
- イ アの広報活動を、パソコン部等の部活動と連動させたり、実行委員会の中に広報担当を作ったりするなど、より自主的、主体的な活動となるよう仕組んでいく。

他校へのアドバイス『キーワード：教職員の理解と協力』

- ア 新たな取組をしたり、全校で取り組んだりするためには、教職員の理解と協力が不可欠です。特に、教育的効果を事前に共有しておきましょう。
- イ 新しいものを作り出すことばかりにこだわるのではなく、すでにある行事を、いかに集団を意識させた取組にしていくかという視点をもつことだけでも大切です。

